

双葉町復興支援員の紹介

双葉町では町民と役場間のコミュニケーションの円滑化・町民の交流機会の創出を図るために町と町民のパイプ役として、全国から復興支援員を募集しました。9月2日の朝礼において委嘱状交付式を行いました。3人の支援員を紹介いたします。

なお、9月17日より新たに1人の方が参画しています。また、今年度はさらに2人の方を募集し、全体で6人の方々に参画していただく予定になっています。



9月より双葉町復興支援員として、双葉町役場郡山支所にて勤務しております小幡雅彦（おばたまさひこ）と申します。大阪府出身の50歳です。

前職は埼玉県で金券ショップを10年間経営しておりました。福島県では10数年前に二本松市にありまます青年海外協力隊訓練所の職員として3年半の間勤務し、たいへん充実した時を過ごせました。

今回、店舗の廃業に伴い、愛着のある福島県の復興関連の職を中心に探していたところ、双葉町復興支援員の募集を知り、「これしかない」という思いで応募し、採用いただきました。

活動にあたり、私自身が双葉町の復興に寄与できることは決して大きくはないかもしれませんが、一人でも多くの町民の皆さまや諸団体の方々と話す機会を設け、復興支援員とは何であるかを理解していただき、そうすることにより、できるだけ多くの情報をいただいた上、その情報が活かせる最善の支援活動を皆さまと共に考え、実行に移せるように活動してまいります。よろしくお願いいたします。



このたび、双葉町秘書広報課でお世話になることになりました。小林辰洋（こばやし たつひろ）と申します。東京都八王子出身、今年で28歳になります。

動画撮影・編集やウェブサイト運営をしていた会社で2年ほど勤務をしており、その技術をいかして、主に、インターネットでの情報発信をお手伝いすることとなりました。情報発信を通じて、皆さまが少しでも安心した生活を送るお手伝いをできればと思っております。

これまでに、たくさんの方からお話を伺うことができ、「大切な情報が正しく、必要な人に届くこと」が必要だと感じております。そのためには、口伝えで情報を伝えることも必要となっ

てきます。両支援員（小幡さん、芳門さん）とも密に連携し、正しい情報が必要な人に届けられるよう、微力ではありますが、お力添えできれば幸いです。

イベント取材などで、お会いする機会もあると思います。その時は気軽にお声掛けいただければ嬉しいです。よろしく願います。



このたび、双葉町復興支援員になりました。芳門里美（よしかとさとみ）です。

東京都調布市出身で、前職では倉庫会社で物流のシステムの構築・管理をしていました。学生時代には社会福祉を専攻し、高齢者福祉、地域づくりについて学び、社会福祉士の資格を取得いたしました。今年の4月に宮城県の南三陸町に行く機会があり、実際に

被災地を見て、震災復興に関わりたいと思い、支援員に応募しました。

双葉町は津波被害のみでなく、原発事故によって町民の皆さんがバラバラに避難している状況で、震災から2年半以上経った今だからこそさらに必要な、町民の皆さんの様々なつながりづくりをお手伝いし、これから先の不安を少しでも軽減できるよう精一杯活動します。

どうぞよろしく願います。見かけた際にはどうぞお声掛け下さい。

